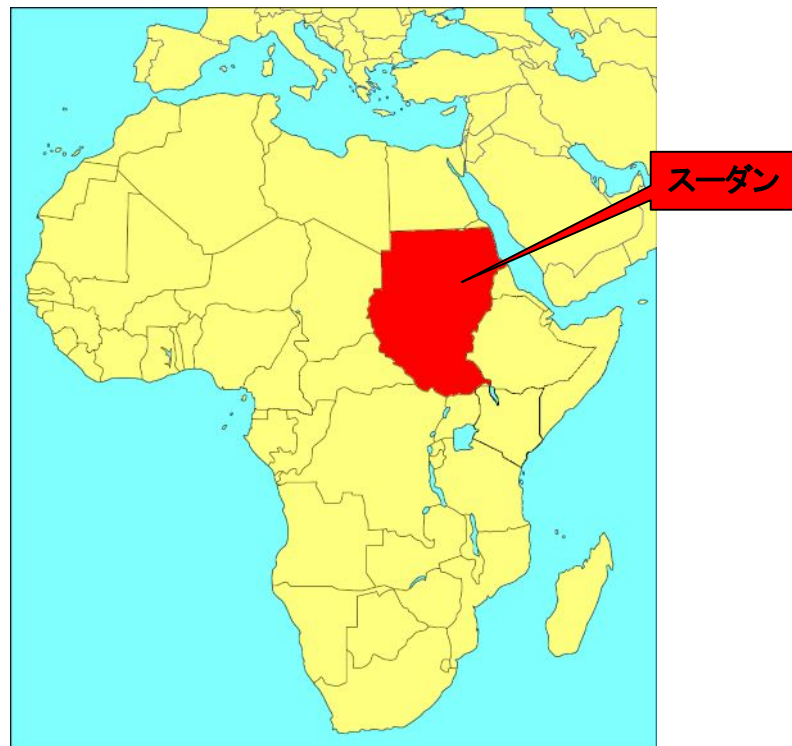


スーダンで内臓リーシュマニア症が流行

2010年12月16日 ProMED 情報(Medecins Sans Frontieres [MSF])



スーダン南部で、最近 8 年間で最も大きな内臓リーシュマニア症(「カラアザール」ともいう)の流行が起っています。本流行は、地域の深刻な医療ケア不足、慢性的な栄養失調、予防可能な感染症の流行そして治安の悪化といったまさに広範な医療上人道的危機の一つの現れであると、国際的緊急支援組織である国境なき医師団(MSF)は警告しています。

内臓リーシュマニア症は、病因である寄生虫を運搬するサシチョウバエの刺咬により感染する熱帯病の一つで、スーダン南部の風土病です。脾腫、発熱、衰弱、消耗等の症状を呈し、極度に医療ケアが不足している貧しいへき地の、政情不安定な地域で発生します。現地では、3/4 (75%)の人々が基礎的な医療ケアさえ受けられない状況にあるとのことです。

治療が行われなければ 1~4 ヶ月以内にほぼ 100%の患者が死亡しますが、適切な時期に治療すると治癒率は 95%まで上がります。MSF では、上ナイル Upper Nile 州、ユニティ Unity 州およびジョングレイ Jonglei 州において、本年 11 月までに昨年同期の 8 倍以上にあたる 2,355 名の患者の治療を行いました。

スーダン南部の人々は、栄養失調の悪化により免疫力が低下しており、このことが内臓リーシュマニア症の流行を増悪しています。

以上に加え、スーダン南部では、住民投票の実施を来年 1 月に控え、スーダン北部や国外から数万人の人々が戻ってきています。これらの人々は、マラリア、麻疹、髄膜炎、結核といった南部地域で流行している病気にかかる可能性があります。また、人口の増加により、食料、水、医療提供といった資源の不足が一段と深刻になるでしょう。